

2014年8月広島土砂災害から10年の節目に、広島市で 「家族で防災を考える」をテーマにしたイベントを開催 ～広島大学・海堀さんや気象予報士・勝丸さんが大雨や土砂災害の仕組みを解説～

一般社団法人日本損害保険協会中国支部(委員長：藤井 竜太・東京海上日動火災保険株式会社 常務執行役員)では、中国新聞社とともに、2014年8月広島土砂災害から10年の節目に、7月27日(土)、広島市中区の中国新聞社ホールにおいて、「家族で防災を考える」をテーマにしたイベントを開催しました。当日は、小学生や中学生の親子連れなど約140人が参加しました。

主催者を代表して、当協会中国支部・加藤 全規 副委員長(日新火災海上保険株式会社 中国事業部長)から、「今年は2014年8月広島土砂災害から10年の節目となります。日本はいつどこで災害が発生してもおかしくありません。防災を学んで、これから起きる可能性がある災害に備えましょう」と挨拶がありました。

イベントでは、まず、広島大学防災・減災研究センター長の海堀正博さんと気象予報士の勝丸恭子さんが登壇して、大雨や土砂災害の仕組みを解説しました。海堀先生からは「ハザードマップが十分認知されているとはいえません。自宅周辺の被災しやすいエリアをハザードマップで確認してください」、勝丸さんからは「今の技術では、線状降水帯の予測が難しいです。目安として、自分の住んでいる地域の1年間の降水量を知っておいてください」などと発言がありました。次いで、広島県危機管理監・みんなで減災推進課主査の苦米地聖さんから、災害に備えるためのポイントやマイ・タイムラインの紹介があった後、当支部・山田高弘事務局長および富永職員が講師となり、地震による建物の揺れや耐震の仕組みが理解できる「ボックスぶるる」を使った実験を行いました。最後に、参加者全員で、「防災クイズ」に挑戦しました。

参加者からは「土砂災害の恐れがある地域に住んでいる。まずは、夏場に必要な避難品を検討したい」「筋交いがないと地震があったときに大きく揺れることが分かった」「筋交いがあるうちに住みたい」といった感想が寄せられました。

当支部では引き続き、行政や関係団体と連携し、防災の取組みを行ってまいります。



加藤副委員長の開会挨拶



海堀さん(左)と勝丸さん(右)の解説



「ボックスぶるる」を使った実験



会場の様子